

報 告 書

開催日時	平成 25 年 7 月 23 日（火）午後 1 時 15 分～ 2 時 30 分	
開催場所	広田保育園	
出席議員	挨拶	佐藤信一班長（教育民生常任委員会委員長）
	司会進行	佐藤信一
	報告者	及川修一
	記録者	鵜浦昌也
	議員	松田信之、大坪涼子、（伊藤明彦：公務のため欠席）
参加人数	保育士 9 人、東海新報社記者 1 人	
主な要望・提言等	<p>1. 市の広報に公立保育園の保育士を 1 月から採用する募集記事が掲載された。そうすると法人立保育園で働いている保育士が少なくなり、年度途中であけられた穴をどうやって埋めればいいのか心配。</p> <p>2. 矢作保育所は現在 11 人の子どもを保育しているが、この人数でも所長もいて、保育士、給食職員がいる。一つの保育所として適正な子どもの数というのがないのか。地元の人たちは保育所があったほうがいいと思うだろうが、統合も視野に考えるべきではないか。そうすることで保育士不足の緩和につながる。</p> <p>3. 今泉保育所は必要か。長部と今泉が一緒になることができないか。</p> <p>4. 広田保育園は移転を待っている状態だが、援助してくれそうな団体があるので、高台移転を話し合っている。県内でも浸水した保育園があり、どこでも地震があるたびにビクビクしている。子どもを預けている親にしてみれば、地震のたびに「わが子は大丈夫か」と思っているようで、心に負担をかけている。</p> <p>5. 竹駒町滝の里地区はスーパーやコンビニがあるため道路が渋滞する。どうにかならないか。</p> <p>6. 住田町につながる国道 3 4 0 号の道幅が狭い箇所を改良してほしい。</p> <p>7. ほかの地区には仮設の各種店舗が建っているが、広田地区にも何か店舗がほしい。</p> <p>8. アップルロードに街灯がほしい。</p> <p>9. 子供向けの衣料品などを扱う店がほしい。</p> <p>10. 企業誘致を進めて多くの人を雇用してほしい。</p> <p>11. 病後児や土日曜日の保育をしてもらえるような体制を整えてほしい。</p> <p>12. 若者が市外に流出しないようカラオケやパチンコ店などがあればいい。</p>	

	<p>い。</p> <p>13. 起業する人に融資でなく補助金がほしい。</p> <p>14. 道路整備を進めてほしい。</p> <p>15. 高田町の道路を行くとどこがどこか分からなくなっている。避難路を示す看板などを各所に設けてほしい。</p> <p>16. 農免道の交通量が増加しており、側溝に設置したグレーチングの上をトラックが通るたびに大きな音を響かせている。農免道から北幹線道路につながる道路を整備してほしい。</p> <p>17. 広田保育園の避難路は途中までできているが、完成していない。毎日ドキドキして保育している。雨や雪が降ると最悪で、避難できない状態。園舎の高台移転はもう少しかかりそうなので、避難路整備を早急に進めてほしい。何度も避難路の所有者である県にお願いしているが進んでいない。</p> <p>18. 小学校の空き教室を利用した保育ができないか。</p> <p>19. 防潮堤もないので毎日ドキドキしながら保育をしている。被災した園舎は津波後に泥を掃除して使えるようにしたが、掃除をしなかった方が良かったのかとってしまう。</p> <p>20. 有事の際の避難は、仮設住宅の方々と連携することが大切だと思ったが、ほとんどの方が高齢者なので不安。</p> <p>21. 法人立保育園に比べ、公立保育所はフリーの保育士が多く、法人立は保育士が不足している。</p> <p>22. 震災後、今泉保育所に勤務することになっていたが、再開される前日に解雇された。法人立は竹駒保育園が被災したにもかかわらず震災前に勤務してもらっていたすべての保育士を受け入れた。</p>
<p>所 感</p>	<p>○佐藤信一</p> <p>保育士不足の現状を始め、市内道路の改修から生活支援等、全般にわたり活発な発言があった。裏手の避難路の現状も視察し、早急な対策をすべきと感じた。</p> <p>○松田信之</p> <p>課題や状況が聞けて、大変良かった。</p> <p>○鵜浦昌也</p> <p>いまだ海岸線に防潮堤が整備されていない中、津波で被災した園舎で保育している苦勞を聞き、一日も早い高台移転の必要性を感じた。また、県に交渉しながら背後地への避難路整備を早急に進めなければならないと感じた。</p> <p>○大坪涼子</p> <p>広田中学校も旧広田水産高校の校舎もなくなって、広田保育園の建物だけが残り、本当に不安に感じました。津波が襲ってきた時、園児たち</p>

は中学生や地域住民に支えられて裏山に避難したと聞き、災害の時の子どもたちを守るための行動の大切さを教えられました。まだ被災した園舎で保育しているとのこと、民間団体などに寄付を要望しているようですが、高台移転が急がれると思いました。

○及川修一

被災した法人保育園の中で、唯一修理して園舎を使用している広田保育園では、眼下に海が見える環境であることもあり、常に津波の恐怖にさらされている現状を実感することとなった。

県立高校跡地への避難路の確保を求めているが、未だに県の理解がもらえず、市も動いてくれないなどの強い訴えがあった。

東日本大震災復興対策特別委員会

委員長 千 田 勝 治 殿

平成25年8月12日

陸前高田市議会議会報告会開催要綱第10条第1項の規定により提出します。

平成25年度議会報告会教民班

班 長 佐 藤 信 一

